

あとから来る者のために
坂村 真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分ができる
なにかをしてゆくののだ

EM による国づくり

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

理事長 比嘉 照夫

旧年は、新型コロナウイルスパンデミックによって組織や社会の仕組みの大変革の年となりました。社会全体としては、SDGs(持続可能な社会運営)で対応せねばなりません。この活動に不可欠な基本は、安全で快適、低コストで高品質、善循環的持続可能を、自己責任と社会貢献認識で推進し続けてきたEM活動以外の選択肢はありません。

EMによる国づくりで最も重要なことは、病気にならない生き方の徹底と自力でできる災害対策を社会化する必要があります。国の施策とは関係なく生活化することが肝要です。その本質的なことは、拙著「日本の真髓」(文芸アカデミー刊)に詳しく書いてあります。

更にその内容を誰でも実行できる楽しい本があります。昨年「善循環の輪」通信で紹介した、野本ちずこ著「微生物さんのパワーを引き出すのはあなた」(パブフル刊)です。この本に書かれていることは、EM技術を繰り返し実行し、EMの持つ重力子効果を引き出せるようになれば、真の安心立命に達することができます。

新型コロナウイルスパンデミックのため、従来のような善循環の輪を軸にしたEM活動は役割が終わったこととなります。とは言え、EM技術は日進月歩ですので、これまでの地域活動の核となっているところに情報を集約し、社会化のモデルを強化したいと考えています。希望する地域は、U-net事務局に申し出てください。

会員皆さまの更なるEM力の向上を期待しています。

①会員に対するEM技術のスキルアップ

日進月歩のEM技術情報を善循環の輪の集いはもとより、EMウェルネスクラブの機能を更に強化し、会員各々のEM力の向上を革新的に進め、各々が地域の環境や健康を守る指導士的な役

割を担えるような仕組みを強化します。「愛と微生物のすべて」と新著「日本の真髄」には、無限の情報が込められています。答えはすべてその中にありますので、繰り返しお読みください。

②広域の水圏環境改善対策

児島湖や三河湾や東京湾、松島湾をはじめ、EMによる水圏の改善対策は着々と進んでいます。水系におけるEMの結界技術の確立によって、広域の水圏の環境改善対策も低コストで容易に実行することが可能となりました。

茨城県、下妻市の砂沼でも驚嘆すべき明確な成果がでています。結界強化法によって、大規模な水圏でもより効率的な浄化法を実施します。

③EM技術による福島復興支援

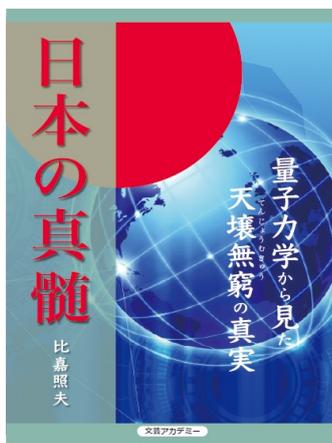
福島の放射能対策の復興支援は、第9回環境フォーラム「うつくしまEMパラダイス 2019」で明らかのように、真に環境や健康を守り、経済的にも豊かになる世界モデルとしての善循環的自然農法の実現に取り組みます。

④福祉施設や学校におけるEM活用の強化

EM技術の進化によって、福祉施設や学校における活用が多様化できるようになってきました。その基本は、良質の活性液や整流炭の応用等々ですが、より安全で快適、低コスト、高品質で持続可能となりました。多くの会員の皆様方の善循環的蘇生活動を期待しています。

EM讃詞

EMさんごめんなさい
EMさんありがとう
EMさんお願いします
重力波、善循環、蘇生（3回繰り返す）
EMさんありがとう
EMさん大好きです
EMさん愛しています



↑ U-net または Amazon
で購入できます



↑ Amazon で購入できます

【事務局からのお知らせ】

U-net 第22回通常総会は令和3年3月5日(金) 午後14時から WEB 会議(ZOOM)により開催致します。プログラム等の詳しい内容は後日ご連絡いたします。

■本原稿は昨年11月4日に WEB 会議で開催された U-net 執行委員会で比嘉理事長がお話しされた内容を事務局でまとめたものです。比嘉理事長の新年の挨拶「EM による国づくり」とあわせてお読み下さい。

U-net の令和3年度の方針について

比嘉 照夫

新型コロナウイルスの感染拡大が続く、この非常時で何をすべきかですが、第一は今までやってきた活動の内容でやれるところはきちんとやること、第二はコロナ下で対外的な活動はなかなか難しい状況なので、これまでやってきた EM 活動の内容をさらに深めてゆく方向に転換することである。

EM 技術そのものは日進月歩で、コロナ下で私の出張もなかったこともあり、飛躍的に技術開発が進んだ。最新技術を用いれば整流結界は紐を張る必要がなく、究極はレーザーも最新技術に応用できる様になってきた。

最新技術の部分は今までの普及のやり方では難しいので、それを実行する核を各地につくること。EM 研究機構や EM 生活の技術員が現場を訪ね、具体的なやり方を示して、核となる現場で EM 技術を積み上げてゆく。それにより、安全、快適、ローコスト、ハイクオリティーで善循環的に持続可能な農業、環境、健康を守るための活動を推進してゆく。

事例としては福島県の伊達市霊山町で EM パラダイス構想(ユニバーサルビレッジ)が始まっている。

10月に福島県で EM 技術懇談会を WEB 会議で行った。WEB 会議でも事前に情報や質問を集めておくなど準備をして行えば、質疑応答や意見交換をすることにより参加者の EM 技術のレベルアップをすることが可能であることがわかった。この WEB 会議での方法は来年度から色々なところで開催、実施できる。

私は以前から災害に強い国づくりを提案しているが、それには公的機関の協力が必要となる。7月の熊本豪雨と洪水において熊本県南部は、U-net の人手が薄かった。被災地の方から EM グループに支援要請があったので EM 研究機構から職員2名を現地に派遣した。現地でのボランティア、対応できる人、神社も含めて協力体制を作り復興支援活動を行った。2名の職員を 70 日間投入するくらい時間がかかった。EM を知っている人は多くいたが、大量に EM を作って供給する体制ができていなかった。今回の復興支援活動を通して人吉地域にも EM の供給拠点ができた。また、U-net の杉本さん、田村さんらと連携して熊本全県で EM が機能する状態になった。

EM 研究機構は7月から北中城村植物ごみ資源化ヤード(村内の植物残渣受け入れと堆肥製造)の運営を村の指定管理者として始めた。このことはエコピュアで紹介した。この方式でやれば災害時に発生する木質の植物性廃棄物をすぐに EM で堆肥化が可能である。さらに、EM 整流炭を製造し、災害時には必要となる EM 活性液を供給するセンターにもなる。理事や世話人の方はこのセンターのことを自治体に紹介して、北中城村資源化ヤードと同じシステムの導入に関心がある市町村がある場合は、U-net を通して EM 研究機構に問い合わせを欲しい。

EM を常に使いながら、緊急時に大量の EM を供給できる体制を日本各地で築いてゆく活動が U-net の次年度の活動の目玉の一つになる。これは確実に EM を社会化することにつながる。

コロナウイルスについては、免疫力を高めるしか方法はない。免疫力を高めればかからない。EM で栽培した農産物、EM で育てた鶏や牛などの畜産物を日常的に食べることで腸内細菌のレベル

を善玉菌にすることで免疫力が上がる。EM生活を徹底すれば、ウイルスへの対応は可能である。EMの日常化、生活化の徹底と、EMの公的機関とのつながり、それぞれのユニバーサルビレッジモデル、これは三重のミロココミュニティで成果を上げているが、ユニバーサルビレッジモデルづくりを進める。

先日、一般財団法人日本熊森協会との色々な話し合いがあった。近年、森が荒れて、ナラ枯れなどでクマの食べ物であるドングリがなく、クマが人里まで出てきてひどい目にあっている。森の荒廃をどう防ぐかが大きな課題になっている。宮城のU-netでは結界を作ってナラ枯れ対策を行っていてうまくいきはじめている。森は個々の畑をやるようには簡単にいかないの、山に対してEMをどうやるか考えていた。奈良県の大神神社の山はEMで蘇った。これまで海の日には川や海にEM投入してきて、EMをやれば汚染から回復できると確信できるようになったが、やはり、山に降った雨水が川や海に集まるので一番いい方法は山にEMが増えて、山から流れ出た水が川や海をきれいにするのが最もいい方法である。

坂村真民の詩は、「あとからくる者のために田を耕し、種を用意しておくのだ」で始まり、次に「あとからくる者のために山を 川を 海を きれいにしておくのだ」と続くが、我々は川や海はきれいにしたが、まだ山には手がついていない。日本熊森協会からも山でのナラ枯れを防ぎ、他の生物が森で生きれる様に広葉樹林化し、効率よく自然保護をしたいとの申し出があった。我々もU-netの行動規範の最初に出てくる山について、山の日と海の日があるので、山の日に因んでどこかでスタートを切りたい。来年度は海の日と並行して山の日にはナラ枯れ防止や野生動物が農産物を荒らさないような対策を兼ねて活動を進める。これまでの活動を山の方まで広げる。山まで活動を広げれば海の日にはEMを投入したのと同じ効果が得られるので、皆さんに情報を周知して頂き、協力をお願いします。

EMの世界は皆がファミリーとしてやってゆくことを打ち出している。安心して日常を過ごせる病気にならない生き方がこれからの国の課題なので仕組みを作る。EM生活を徹底させて、日本の未来像を「日本の真髄」に書かれた方向に持ってゆく。

来年度は今までのように人を集める講演会を開催して普及をどうかではなく、もっと積極的に進めてゆきたいところに原資を集中して、EMが社会資産的に機能し、その結果が社会的な役割を果たすような形にする。

EM活用を具体的に深めてゆくと、それが確実に社会的無形資産となり、みんなの情報源になる。こういう活動が今は出来るようになってきた。EMグラビトロン炭と整流結界技術をうまく使えば肥料を入れなくても作物が育つテラプレタノバが再現できる。世界に先駆けて日本各地でそのモデルを作る。この機会にEM技術が本当に社会のものになるように活動を強化してゆく。最悪な状況が起こっても、EMはこれを全部エネルギーにして、最高の状態に変換できる。そう思って色々なところで積極的に声をかけて下さい。

以上